

# 区政60周年記念シンポジウム

## わたしたちにとって「自治」ってなに？

平成19年2月17日(土)午後2時

早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

### パネルディスカッション「身近な地域での自治について」(要旨)

【敬称略】

**司会：** それでは、これよりパネルディスカッションを始めたいと思います。

まず、パネリストの方をご紹介します。皆様から向かって左側から、早稲田大学教授 卯月盛夫先生。柏木地区協議会委員 安田明雄様。元新宿区民会議世話人会会長 高山俊達様。以上の方は、新宿区基本構想審議会委員でもあられます。

そして、大森彌先生、中山新宿区長、以上でございます。コーディネーターを卯月盛夫先生にお願いしております。それでは、卯月先生、よろしく願いをいたします。

**卯月：** 朝からお集まりのことかもしれませんが、貴重なシンポジウムのパネルディスカッションですので、もう少しだけお付き合いをお願いいたします。

大変短い時間で、なかなか会場の方とも、やりとりをする時間が取れない可能性もありますが、どうぞご了承のほど、お願いいたします。

先程の大森先生の「わたしたちにとっての自治と、これからの自治」の講演では、大変楽しく、また勉強になるお話をいただきました。東京都との関係、あるいは議会との関係なども十分重要的なことと思っておりますが、これからの50分近くは、むしろ「住民自治」ということです。

先程、大森先生のお話の最後の方にありました、ともに働くという「協働」ということ、あるいは新しい住民参加のシステムという言われ方をされていたと思いますが、新宿区においては10の地区協議会という新しいシステムが出来ております。その辺について、少しパネリストの方の意見の交換をして、ある程度方向が出ればありがたいなと思っております。それでは、貴重な時間ですので早速始めたいと思います。

まず、区民会議にずっと参画されてきました世話人会の会長である高山さんから、お願いいたします。

**高山**：先程、区長さんのお話の中にもございましたが、新しく基本構想を作る時に、住民意見を取り入れたいという区長さんの考え方と、時期的なこともあり、住民参加意欲の高まりがあることを察知していただいたのかと思いますが、お声をかけていただくようになりました。

区民会議は、公募という形で400名近い区民が集まり、実生活の中からのいろいろ経験したことなどで思っている、いわば要望などを整理しながら、基本構想の中にそういう自分たちの熱い気持ちを取り入れていただくとありがたいというようなことで始まりました。

区民のレベルということですので、それなりに個人としての思い込み、いろいろなことがあり、整理することには大変な時間がかかりました。

全体として6つの分科会に分かれ、子育て、教育、青少年、健康、高齢、障害、介護、まちづくり、防災、景観、みどり、環境、リサイクル、産業、文化、観光、コミュニティ、自治制度、先程の協働・参画、地域安全、多文化共生というようなことをテーマにして話し合いました。

先程言いましたように、個人的な思い込みもありますので、先ず「現状の把握」、「共通の現状認識」を持った上で、「将来の新宿区のあり方」のように話を進め、整理をしました。

十分な時間があつたとは言えないかもしれませんが、それなりに区民として熱い気持ちを込めて、先日、提言書にまとめて区長さんへ提出したところです。

区民会議としては、その提言書を作るということが一つの目標でしたが、その後、提言書がいかに基本構想の中に生かされるのか、もう少し検証していこうと区民会議の任期を少し延ばしていただき、基本構想審議会の答申骨子案について、さらに意見を述べさせていただくというところまでやってまいりました。

区民会議で考えた提言書が中心になって、これからの新宿区基本構想が作られることに大変意義があると思っており、十分に区民視点が入れられた基本構想をこれからも議会と共に作っていただいて、将来、15年、20年先の新宿が、しっかりした私どもの住みやすい、安全な安心なまちになることを望んでおります。

また、この1月31日で区民会議は一応解散したところですが、先程から出ており

まず、協働・参画という立場に立って、ただ言いつ放しではなくて、我々もこれからは、ともに働きながら、責任を果たしていかなければならないことを痛感しながら、新宿区の今までの施策などで協力が出来るように携わっていきたいと考えています。

**卯月：**皆さんもうご存じのように、区民会議は1年かけて提言書をまとめ、その後、半年間かけまして審議会の方とキャッチボールをしてきました。区民会議は1月31日をもって解散したのですが、その後の展開がどうなるのかということ、また後からお話いただければと思います。

それでは、次に安田さんをお願いします。安田さんは地区協議会で活動されてきて、今回、審議会委員もお務めいただきました。

区民会議というのは期限が定まった会議ですが、地区協議会は、多分これから未来永劫ではありませんが、かなり長く続くことになります。そうしますと、この基本計画をどうフォローするか、チェックしていくか、とても重要な会議だと思います。

今までのご経験を踏まえて、その辺のお話をお伺いできればと思います。

**安田：**卯月先生から、地区協議会についての話ということですが、その前に身近に経験している中で「自治」というものを考え直してみたいと思っています。

まず、人間というのはやはり一人では生きられない。人というものは、やはりお互いに支え合っている、これが人という字だそうです。

私はもう退職していますが、人という字に「動く」という字が結びつくと、「働く」という字になります。この働くという意味は、大きく2つあります。

1つは、金銭的な対価を求めて働く部分、もう1つはそれ以外の部分です。実は、最近読んだ本で、アルビン・トフラーの「富の未来」の中に、これからいろいろな富というものの方向が出てくるわけですが、非常に示唆するものがあると思います。

まず、世界中の金銭的に換算できる「富」というものが、1年間で約50兆ドルだそうです。その反面、いわゆる子育て、家庭、ボランティアとか、NPOも入るかもしれませんが、換算できない部分も50兆ドルあるそうです。しかも、この仕組みは、そういう換算できないものがないとすれば、換算できる金銭的なものの創出はあり得ないだろうと述べています。まさにボランティアや自治という部分は、まずその部分から、やはり住民がスタートすべきものではないかと私は考えます。

2、3、関わっていることをお話させていただきます。私は退職後、まず自分の健康のために、母が通っているラジオ体操の会場に行きました。そこには、30、40年、営々と続いた人たちが、非常に地域の素晴らしいコミュニティを形成しています。しかし、ラジオ体操にも、子供が最近はあまり参加していない、さらに運営は有志の寄附で賄っているなど問題があります。こういう問題はさておき、新宿区内には、約80ぐらいのラジオ体操会場があると聞いています。そういう小さな部分で、地域コミュニティが形成されていることを、私は、まず最初に認識いたしました。

それから、最近、隣にお座りの卯月先生とも関わってくるのですが、北新宿三丁目町会の中に、しんかいばし児童遊園という公園があります。2年前に私ども10数名で、公園が子供の安全になっているのか「子供の安全」というテーマの中で、周りの公園を評価しました。その時に、しんかいばし児童遊園が一番低かったのです。これを何とかリフォームして、いい公園にしようと、卯月先生のほかたくさんのボランティアが参画し、さらに子供にもこういう公園をつくりたいと参画していただきました。そして、3月18日にリニューアルオープンとなり、イベントが組まれております。この席にお座りの中山区長にもご足労願いますが、よろしく願いいたします。

そういうことを通じ、やはり大人だけでなく、子供が参加することによって、物事が素晴らしいものになっていくことを実感しました。

最後に地区協議会ですが、実は地区協議会は、既にご存じの方も多いと思いますが、まだ生まれて間もない。ゆえに、町会や自治会、そういう歴史を持った自治組織とは全然違います。しかし、これからの自治のあり方の一つの大きな柱になっていくものと区長も盛んにおっしゃっていますし、私自身そう思っています。

これからの地区協議会のあり方には、いろいろ課題もあると思いますが、地域の方が積極的に参加して、より良いまちを皆で作っていくという、非常に良いシステムになっていければと思います。

**卯月：**ありがとうございました。それでは、次に中山区長にお話いただきますが、今の高山さんの区民会議のこと、それから安田さんの地区協議会の話。こういった非常に先駆的な住民参加の仕組みを区長自ら立ち上げて提案された、そのあたりの経緯、あるいはこういったお考えでこういったものをご提案されたのか。しかし、まだまだ

幾つか乗り越えなければいけない課題もあると思われまますので、その辺の話を中山区長からしていただけますでしょうか。

**新宿区長**：私は、ちょうど区長になって4年と3ヵ月。2期目がスタートして3ヵ月ですが、私は区長になる前、公務員としてずっと働いてきました。

先程、大森先生の方から悪名高い東京都で働いてきたのですが、私は都市に暮らす生活者としても生活してきて、実はその時に同じようなことを非常に感じていました。

それと、やはり今の時代認識をどう持つかということ。時間がないので本当にキーワードで言いますが、今、私たちが直面している社会というのは、ともに生きる「共生」、先程大森先生からお話があった「協働」、協働の分権型社会をつくらない限り、この東京のまち、新宿のまちも、それから日本の未来は、どれだけ国際化して国と国との垣根が低くなっても、また人口減少社会を迎える中でどうにもならないだろうと。

そういう時代認識がある中で、その時に一番肝心なのは何かと言ったら、住民自治を豊かにするということ。これがなかったら、成り立ちいけないというのが私のベースにありました。

その時に、ちょうど基本構想の見直し、基本計画、都市マスタープランを作ることになりました。一番のキーワードは、私はやっぱり住民の生活に近いところから、行政をもっと生活に合った形で、総合化をしていくことの必要性が何としてもある。

しかし、これは私の実感ですが、今まで日本の国は、いわゆる行政が専門性を蓄積するということで、「縦割り」でずっと進めてきて、成功し、一定の豊かさになった。けれども、今は非常に弊害の方が大きくなってきて、共生・協働の分権型社会が何としても必要となっている。

そこで、基本構想の見直しなどを行う場合には、区民参画なくしてやったら未来はないだろうと、そんな思いがありました。でも、これは職員がその気にならなければ出来ることではなく、区民の皆さんがそう思わなければやはり出来ない。そういう意味では、今この段階に来ているということは、新宿区民の皆さんがそういう思いを持っていたということ、職員がそういうふうに思ったということの結果です。

今までの行政の一番悪いところは、ある時までは非常に効率的だったのですが、画一的にやること。それで日本は発展し、ここまで来た。そこで成功体験を持っている。

画一的にやるということは、集権的にやることで、皆それに慣れてしまっている。私は、「集権から分権へ」というのは、「画一から多様へ」だと考えています。

ですから、仕事の仕組みや文化、日々のことを変えない限り、これは変わらない。今までの方が楽だからでなく、行政も住民にも、もっと責任を持ってもらわなければいけません。

ところが、やはり時間との闘いがあり、多分、区民会議のいろいろな仕掛けを作り、有識者の先生方にもチームを作って支えていただいたわけですが、皆さんから見ると不十分じゃないかと。私は、どうありたいかを皆に明確にしながら、批判することが大切なだけでなく、肯定的に一步出ていくことを評価してもらいたい、支えてもらいたいという思いがあります。

地区協議会についてですが、地域の中での参画といった場合に、一定の規模があると思っていました。新宿の場合には、特別出張所が10ヵ所あります。そうすると3万人くらいの規模で、地域内分権が出来たらいい。地域内分権の拠点となる、区政参画の場であり、区民が自分たちの地域内で活動していく、いわゆる解決をしていく場としての地区協議会です。しかし、これは今までの行政がそうなのですが、地区協議会を立ち上げる前に「皆さんのところで話してください。そのために必要なお金を少し提供しましょう。」という課題別地域会議がありました。その課題別地域会議を各特別出張所で立ち上げてもらう時に、課題が見つからないのに会議なんかやらないでね、と私は言いました。

その理由は、今までの行政は、こう決めると皆で同じにやらないとだめなのです。でも、地域もその中の区民も、その熟度も違うわけですから、地区協議会もそれぞれのところの今の力を反映するような、多様な地区協議会で私はあっていいと思います。

そうすると地区協議会って本当は何なのか、何かいろいろな町会や青少年の団体などが集まって来ているが、何かまた同じようなことをやるみたいと思われるところがあると思います。

しかし、そこから自分たちのことに責任を持っていけるような体制を作っていく、皆ここにこうやって集まって来ていただいていることから、私は本当に希望を持っています。区民会議も最初は100人規模の区民参画を新宿区でやろうということに、

新宿のまちなんかでそんなこと出来ませんよという話もありました。

しかし、10地域に説明に出て「皆さん、どうぞ参画してください」と言ったら、376人が集まったことは、逆に涙が出るくらいうれしい。そういう中でも、なかなか達成感がなかったり、矛盾を抱えたり、批判されることがいっぱいあると思いますが、新しい芽を一つ一つ伸ばしていける、そんな場を皆さんと共に作りたい。それが一步一步前に出てきている、そんな思いです。

**卯月：**ありがとうございました。

それでは、大森先生にお伺いしたいのですが、新宿区で地区協議会を立ち上げて、1年数ヵ月経ちます。しかし、これからまだまだ前途多難だと思います。こういう23区、特に大都市の中で地区協議会を立ち上げて、これから機能させていくときに、何かこう注意しなければいけないこと、あるいは他の地域で参考になるようなお話、そういったものがございましたら、ぜひ紹介していただければありがたいと思います。

**大森：**かつて同様な仕組みを東京の中野区がやりました。私も関係していて、1年間のうち半分近くが入れ替わるような都市の真ん中での「住民自治」は、どうやったら可能になるかやってみましたが、あまりうまくいかなかった。

その後、いろいろな所でお付き合いをさせていただき、新宿区の地区協議会の今後に関わることですが、最近のこのタイプの実例を見てみると、うまくいかなかった最大の理由、“勝負はどこにあるか、どこが決め手になるか”。

住民の皆さんが議論する、おしゃべりをする、それだけに止まる所の自治は弱い。何が肝心であるか、具体的に体を動かして行えるような事業、活動があることです。自分たちの地域について、ささやかな事業でも自分たちで企画して、自分たちで一定の予算を持ち、実施してみて、どうだこうだと言う。そういう何か実際の活動としての実態がないと持たないのです。中野区での失敗はこれです。

今後、もしかしたら区長さんが考えになるのは、地方自治法の一般制度としての地域自治です。そうすると、例えば港区が生み出しているような仕組みになるわけです。本庁はできるだけ限定して、地域の総合出先機関の方へ権限を動かして、その地区を住民の人たちが関わり、その仕事そのものに関わる仕事を作ることによって地域のさまざまな活動、本格的な協働の仕組みを地区でつくっていく。それが将来を決定、

非常に重要なことになるのではないのでしょうか。

何回か議論すると議論することが無くなる。そうすると、その後、何しようかということになるわけです。「いや、実際にやることがある。事業を企画してやることはある。」とそこまでいってくださると、困難があっても自治は生き生きするのではないか、そんなことを思います。

**卯月：**ありがとうございます。今、大森先生から地区協議会が具体的に汗を流す、体動かすというご提案がありました。それを少し受けていただいて、高山さんと安田さんに地域とか、これから活動していくことが求められていたわけですが、それについて、お願いします。

**高山：**今、大森先生からお話ございましたが、まさにその通りです。区民会議でも提言書を提出し、また基本構想審議会へ素案に対する意見なども出していますが、その後どうしていくかということが、やはり問題になりました。

1月31日までの任期で解散した形ですが、解散前に話し合ったことは、提言書を作って、基本構想の中にその方向性みたいなものをお願いするという立場では、当然、我々区民にも責任がある。確かな成果が上がるように、やはり住民としても動いていかなければならないという認識は、一致しておりました。

地区協議会などの組織も出来ております。区民会議に参加した皆さんは、出来れば、まず地区協議会とか、同じような活動をしている組織の中に入って、まず活動していただくことをお願いした次第です。基本構想審議会の答申の中にもありますが、これからは区民が参加した形で、実際にどのような形で施策の方が行われていくのか、検証するような組織も出来るようになっていきます。また、そういう組織に参加できるような機会があれば、積極的に参加していきたいと思っています。

今後、地区協議会が充実した形になることを望んでいますので、よろしく願いいたします。

**卯月：**安田さん、地区協議会は、今考えている地域分権や、先程区長からあった地域内分権といった形での自治の、いわゆる受け皿という言葉は悪いかもしれませんが、地区協議会はそういったものになり得ますか。

**安田：**大変難しい質問ですが、ぜひやらなくてはならないと私自身は思っています。

例えば、10地区それぞれの特性というのがあると思います。それぞれお考えかと思いますが、少なくとも柏木地区協議会のメンバーの意思統一は、この地区協議会をまず皆さんにも知ってもらおう、そこから始めるためにはどうしたらいいか。そのためには自分たちで出来ることを、できるだけ自分たちでやっつけていこう。それが地域の方に認識されていけば、やはり強いものではないかとの意識は統一されています。

その1つには、安全・安心マップを作ったり、今回、地域の方が集まるグラウンドゴルフをやろうとか、そういうことからスタートしています。

しかし、これにも限度があると思います。いろいろな組織の中で、具体的には13団体の中から参画していただく部分と、公募という大きな2つの成り立ちが、メンバーにあるわけです。やはりそれぞれ地域では、いいまちづくりをしよう、子供のためにとか、いろいろ努力されています。

しかし、それが必ずしもベクトルが1つの方向に向かないことに、大きな落とし穴があるのではないかと認識しています。何とか地区協議会は、今後もそういった既存組織の方々とできるだけベクトルを合わせ、いわゆる情報の共有とか努力していけば、必ず今まで以上の効果的な成果が上がるのではないかと。それには行政にその部分を十分協力してもらって、住民だけでは成り立たない部分ではないかなと思います。

**卯月：**今の安田さんのお話を聞いて、お伺いしますが、先ほどの大森先生の言葉にあったように具体的に体を動かす、事業を持つことが極めて重要だと思います。しかし、地区協議会だけが事業を起こすには、やはり限界があると思います。

ある程度、行政の支援の仕組みや予算の問題、人的支援も含めて、本当の協働の仕組みというのを、行政の方もある程度提案し、それといい関係で地区協議会が動いていただくことが必要だと思います。その辺の支援とか、独自の予算など言いにくいかもしれませんが、いかがでしょうか。

**新宿区長：**実は、私も大森先生が一番の問題とした、そこが単にこの地域を豊かな地域社会を作るためにとか、この地域の課題はとかといって話し合っているだけでは、どこかで消耗するというのはおっしゃる通りだと思います。事業を持っていくことを考えることが、本当に重要だと思います。

新宿区の19年度予算案として、この地区協議会に提案をしているのは地区協議会

のそういった場を支えるための非常勤職員、協議会の仕事を支える非常勤職員を一人ずつ付けていくということ。併せて、新宿区は、実は協働事業を提案していただいて、区と一体となってその必要な事業をやっていくという「協働事業提案制度」を昨年度から始め、19年度から実際に事業実施がなされる。そういったことを地区協議会とも一体となってやっていくこと。

もう1つは、最終的には地区協議会に予算を持ってもらうことまでを考える必要もあると思います。なぜかという、地域特有の、地域の人たちで考えていけるような課題があるのではないかと思うのです。

私が一番懸念しているのは、予算を持つということ、いわゆる今までの仕事の進め方、どこも同じようにやっていく、わざわざ必要でもない仕事を作ったり、そういうふうになっていく。それは、自治として目指しているところとは異なるので、本当に必要なこと、実質的なことをやっていけるような、互いに住民自治を豊かにしていくトレーニングというのか、一步一步やっていくことが必要だと思います。

皆さんからぜひとも地区協議会の中で、自分たちの地域の課題として、こういうふうに解決も出来るし、区と一緒にやってやりたいからという提案を上げてもらえれば、それを本当に真摯に受けとめてやっていきたい。

また、そういう仕組みは、十分、今の予算の制度の中でも持っていますし、もっと充実することも出来ると考えています。

**卯月：**地区協議会が提案を持つということが、僕にとっては非常に魅力的でした。また大森先生にお伺いするのですが、ちょうど議会のお話が出たので、ちょっと議会と地区協議会の関係について聞きたいのですが、地区協議会は代表制を持ちませんよね。区は10地区ありまして、40名から50名ぐらいの範囲で、基本的には公募で選ばれていると思いますが、必ずしも公的には代表制がない。

だけど、そういうところに予算をきちんとつけて事業を行うことは、実際可能なのでしょうか。あるいは区議会との関係で、そういったことは、どんな制度設計、多分、自治基本条例をしなければいけないと思うのですが、その整理をすることが出来るのでしょうか。

**大森：**私がお手伝いして実際にやったところがあります。小さいところですが、静岡

県の大井川町という、一番基礎的な町内会、自治会です。やはり地域自治を持続的に担っていただく、そこがまちづくりの一番基本的な体として、より大きな体に括って、まちづくり委員会を重層的に、幾重かに構想するというのをやりました。

その時に、これはまちづくりの条例を定めてますから、当然、議会の議員さんの皆さん方のご了解でやってます。ここで言えば地区協議会に当たる部分については、最低限、運営費が要ります。運営費の予算をきちっと作ってもらおうのですが、地区によっては、とりあえず1、2年は余りやることが無い所を強制することはない。毎年、事業について自分たちがこういう事業をやりたいということを提案してもらい、その一定の額については、事業費を補助するとしている。

例えば、今まで田んぼのあぜ道の湧水が滞り、ちょっと前だったら蛍が飛び交ってたのに、いなくなってしまった。地区の人もわかっていて、うちでは蛍の再生という事業を自分たちでやりたいとかです。そういうことにはお金かかるのです。

そういう事業の計画を出してもらって、公費を扱うことになるので私どもも考えて、恐縮ですが条例中にその地域の職員が公費の用途についてはきちんとやりますとしました。お金を渡した時に困るのは、そう多額は渡らないのですが、若干でもスキャンダルなことが起こったら、これは潰れてしまうのです。

ですから、どういう事業を組んで、どういうお金が出て、そのお金の管理をどうするかをセットにして乗り出して、出てきたのが基本的にまちづくり条例なのです。

今後、多分この仕組みを単独と考えて、例えば自治基本条例の中とかいうか、どういう仕組みであるかを考え、どういうふうに条例で受けるのか、職員の方も含めてきちんと、ある種の体系を整えることではないでしょうか。

その時に、私はできれば議会を通じて、この仕組みを作ってもらいたいと思う。そうすると、今後、いろいろな議論を協議会でしていても、議員さんたちがあまりそのことについてこだわったり、反発しないで済むのです。

最初に作り出す時に、そうではない人が作ったものだとか“おれたちの出る幕がなくなる”となってしまう。これは、作り方の最初に問題があるのではないのでしょうか。そう思っています、そんなに難しいことではない。

**卯月：**今のお話をお伺いして、高山さんと安田さん、何かその地区協議会の将来のあ

り方、事業を提案した他の地区と競争し合うかもしれませんが、それによってきちっと説明が果たせて、事業効果があるとなったら予算がつき、きちっとその事業を行う。その事業を行う時には、先程、区長がおっしゃった地区協議会まちづくり活動支援費、非常勤職員がつく、そんなイメージを思ったのですが、それについて何か。

**安田：**大森先生のお話をお伺い、感じるのですが、常に私どもは地区協議会の中で問題とする部分があります。それは、これから地区協議会はどんどん発展した時に、当然、既存の町会ほか、いろいろな組織とどう調整をしていくかということ。この部分は、予算以上にまた困難な部分もあろうと私自身は予測しています。

これは、それぞれの組織がそれぞれの思い、目的を持って、一生懸命やっているわけですから、そことどう協調して連携をとっていか、ここが1つのポイントではないかと思えます。そういう中で、また地区協議会が独自の活動を見出し、そして住民の方と連携をとっていくことがやはり重要と思っています。

**卯月：**高山さん、いかがですか。今後の自治、地区協議会の活動、事業計画。

**高山：**今、安田委員の方からもお話があった、既存の活動をしているところとの、協調というのが非常に問題かなと思っています。

区民会議の中でも議論になったことですが、普通ですと町会という組織が存在していて、その状態の中に新しく地区協議会みたいなものが出来たような流れですので、新しく出来た地区協議会に対する理解みたいなものが、まだまだ説明不足かなと思います。また、そういう所の意見の汲み上げとか調整、議論もしないと、やはり地区協議会としての価値も当然現れてこないと考えています。

既存の組織の中は、そういう言い方すると少し違うかもしれませんが、割合、高齢の方が携わったり、男性が携わっているという組織が多い。できれば、新しくこれから発展していく地区協議会は、若い人の委員、性別を超えた女性も含めた形で、広い意味での住民参加を目指していただければ、大変ありがたいと思います。

繰り返しになりますが、区長さんからお声をかけていただければ、少なくとも400人ぐらいの区民が集まって、将来の新宿を考えるという力を持っています。まさに、先程の基本構想の中にもあった「新宿力」。そういうことにも結びついてくると思えますので、新宿力の方も確かなものになるように育てていただければと考えます。

**卯月：**先程、大森先生から中野区が少しくましくいかなかったかと。今、70年代の中野、目黒とか武蔵野を見たとき、いろいろありますよね。すべてじゃないかもしれませんが、それがうまくいかなかったというのは、やはり既存組織の町会、自治会、その他との関係が、あまりきちっと整備できなかったこともあるような気がするのですが。その辺、今後、新宿区では、どのような整理が出来るのでしょうか。

**新宿区長：**実は、その70年代の中野、私はその時、中野区で課長をしてました。それで、大森先生も少し存じ上げておりました。

私はこう思ったのです。町会組織やそれから既存の組織、それを大事にすること。NPOでありますとか都市の多様な要素を持っている多様な力、その当時はなかったですね。それから、ある得意なところを持っている人たちのステーションになるような、自治の担い手をなるべく結集できる場所。町会がやっていること、育成会がやっていること、それからいろいろな地域の中の活動、それらを私はもっと後押ししたいと思っています。後押しをしながら、その活動と併せて、皆でもっと互いに知り合って、そういった力を寄せ合えていけるような場所が必要です。

そこで総合的に見ていった時に、自分の地域にとって何が必要なのか、区政の参画の場として声を寄せ合うために何が必要なのか。地域の課題を解決していく時に各々の組織だけでは出来ないけれど、一緒にやるためのお金や、区と協働事業でやるものを提案できるとか、今の都市にもう一度都市型コミュニティをみんなで耕していく、そういった場所が必要です。町会やその他の地域の中にあるいろいろな活動、NPOやそういうものが、競い合うのではなくて、そういう人たちの力を寄せ合える、皆がその地域の中の課題を考え、実行できる場所が必要です。

新しいものを作ろうとすると、今までの考え方は、なかなか理解しにくい部分があるのですが、困っていることはあるはずだと思います。そこに集まってくれば、こんなこと出来るとかがあると思います。

だから、私はあまり無理をしないでほしいと思っています。どこかの地区協議会がうまくやれたのを見て、自分の所も、あれは出来るなと思ったら真似をしてもいい。区としては、皆さん方の活動を支援できるような人のスタッフの問題、お金の問題、それはしっかり受け止めます。

それから今、NPOを対象にしている、例えば協働事業みたいなものを地区協議会と一緒にやるという仕組みも出来ている。それを自治基本条例の中で、地区協議会についても、そういう制度を作っていくことや予算についても、議会で大きく、しっかりと議論をしていただけるわけですから、そんな場所でありたいな、あってほしいなと思っています。

**卯月：**地区協議会が緩やかな形で既にあると思いますし、もう束ねるというのか、何か一つの場がそこに出来たらいいというお話でした。

そう考えますと、今ある地域センターのような建物とか、地域センターの管理運営というのですか、そういったものとも関係することが重要になっていくと思います。

だんだん時間がなくなってきました。本当に申しわけないのですが、最後に、これからの新宿区の地域、身近な自治を進めるためにどうしたらいいか、地区協議会のあり方でも結構です。何か一言ずつ4人の方にご発言をいただいて締めたいと思います。高山さんお願いします。

**高山：**新宿区の区民会議、先ずは出来まして何度も言いますが、1月で任期が終わってしまいました。これからも第2回目の区民会議、あるいは第3回目という形で区民の意識を取り入れていただけるような場を、出来れば数多く作っていただけることを望みたいと思います。

あまり幅広い範囲での話ですと、やはり時間とか資料集めとか大変困難になりますが、小さな1つの単位で集まって、区民の立場から議論することも大切なのかなと考えておりますので、その辺は考えていただければと思います。

**卯月：**安田さん、お願いします。

**安田：**私は、やはりその住民個々の地域にいろいろな問題があると思うのですが、この問題の解決の認識、まず何が問題かという認識が必要だと思います。そして、その問題認識は、我々大人が次の子供にいいまちとして何を残してやれるのかという、まちづくりの部分を常に意識して問題を抽出し、それを皆で解決する。そういう場を作るという、ここからやはり私は自治が始まっていくのではと思っています。

**卯月：**大森先生、お願いします。

**大森：**若い頃、町内会、自治会については、私と先生たちの考え方もあったのですが、

相当否定的でした。町内会、自治会は戦前の時に行政に組み込まれたということで。ただ、私は、いろいろなことでお付き合いしていると、そういう考え方はやっぱりどこかで克服すべきだと思うのです。

地域という単位にした時に、私どもが持ち得ていて、しかもそこで一生懸命やっている方々もおいでになる。やはり町内会、自治会というものを、もう一度きちんと捉え直し、意義づけて、これが地域の一番基盤になるということ、もう一度再考すべきではないかと思っています。

今後、新宿区が自治基本条例を作る時に想定されるのは、地域コミュニティについて飯田市も悩んで悩んで、やはり衰退著しい町内会、自治会をどうやって再興するかということでした。それが非常に強いご希望だった、私もそう思いました。

かつて、私どもが若げの至りで、町内会、自治会を軽視したことの反省をもって、これをどうやって地区の基盤に据え直せるか。そして、今、区長さんがお出しになっている新しい地域の自治と仕組みとどうやって連動させるかというのが、私は自治基本条例の最も大事なテーマになるのではないかと思っています。

**卯月：**ありがとうございました。それでは、区長。

**新宿区長：**もう大森先生にまとめていただきましたから、私も同感です。

本当に、今の現場の中で現実を重視して、それでこの新宿のまちというのは、大森先生にも言っていたいただきましたが、いろいろな意味で非常に恵まれている位置にあるのです。

例えば、財政とかを地方と比べてみたら、本当に私たちは恵まれている位置にある。だからこそ、ここから「自治」をキーワードに、豊かな地域社会、それから責任を持ったそれぞれが関わり方を、どう考えていくかということに取り組んでいきたい、そんな思いです。

**卯月：**ありがとうございました。今日は、新宿区基本構想審議会及び新宿区都市計画審議会の2つの答申を区長に提出したということをつきかけに、これからの新宿区の自治について考えるシンポジウムが行われました。

自治基本条例がこれから制定される。あるいは地区協議会の活動、権限がそれから少し見えてくる。大変重要なスタンスとして、今日、その議論が出来たことは、とて

も素晴らしかったと思います。

ただ、これ1回ではなく、自治基本条例は、もっともっとどうあるべきか、地区協議会はもっともっと詳細にどうしたらいいのか、きっと議論していかなければいけないと思います。今日お集まりの方々、また次の機会に、この新宿の将来の道を考える機会にまたご参集いただいて、議論をしていただきたいと思います。

ちょっと超過いたしました。これにて本日の区政60周年記念シンポジウム、「わたしたちにとって自治ってなに？」を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

**司会：**卯月先生を初めパネリストの大森先生、高山様、安田様、区長、ありがとうございました。今一度、盛大な拍手をお願いいたします。これをもちまして、本日の区政60周年記念シンポジウムを終了させていただきます。

このシンポジウムを契機にして、今後、区内の至るところで自治をめぐる話し合いや議論が行われまして、新宿に豊かな自治がつくられてくること、それを切に願っております。本日は、ご参加、誠にありがとうございました。